

たまねぎレポート【第414号】



令和4年4月26日

阪南青果株式会社

社内報

3月の天候は、西日本と沖縄・奄美の気温はかなり高く、北・東日本で高かった。東日本の降水量は少なく、東日本の太平洋側と沖縄・奄美の日照時間は多かった。4月の気温は平年より高い日が多く、北日本の雪解けが進んだ。

気象庁の5～7月の3か月予報では、この期間の平均気温は全国的に高い確率50%。月別予報は次の通り。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半の天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、月の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。月の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の概況

建値市場の3月の野菜の販売量は、210,295トン前年比96%（前月比110%）、平均単価はkg ¥255前年比113%（前月比102%）。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥244前年比124%。東京市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥268前年比113%。名古屋市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥246前年比113%。大阪本場の販売量は前年比93%、平均単価はkg ¥262前年比118%。福岡市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥194前年比111%となっている。福岡市場だけが前年比販売増となっている。

建値市場の3月の玉葱の販売量は23,332トンで前年比81%、（前月比108%）、平均単価はkg ¥212前年比236%（前月比112%）。市場別には多少のバラツキはあるものの総じては、前年比で入荷減の単価高となっている。市場別では、札幌市場の販売量は3,084トン前年比90%、平均単価はkg ¥168前年比271%。東京市場の販売量は9,102トン前年比83%、平均単価はkg ¥233前年比231%。名古屋市場の販売量は5,753トン前年比82%、平均単価はkg ¥188前年比218%。大阪本場の販売量は2,895トン前年比60%、平均単価はkg ¥235前年比262%。福岡市場の販売量は2,498トン前年比98%、平均単価はkg ¥220前年比239%となっている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の3月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が94,031トン前年比3%減、平年(過去5年平均値)比4%減。平均単価はkg¥169前年比17%高、平年比13%高となり、前月に続き2か月連続で平年を上回った。販売量が前年比増の品目は、ネギが前年比13%増、ジャガイモが8%増、ピーマン・ホウレンソウが6%増など8品目。販売量が前年比減の品目はタマネギの前年比13%減を始め、トマトが7%減、ハクサイが6%減、キャベツが5%減など6品目。前年比高となった品目はタマネギがkg¥184で前年比145%高、キャベツがkg¥95で70%高、ハクサイがkg¥69で44%高、結球レタスがkg¥162で42%高など9品目。前年比安の品目は、ニンジンがkg¥94で前年比47%安、ネギがkg¥307で25%安、ジャガイモがkg¥191で23%安、サトイモがkg¥258で1%安など5品目となっている。

東京都中央卸売市場の3月の野菜の入荷量は、117,046トン前年比96%(前月比111%)。平均単価はkg¥268前年比113%(前月比102%)で入荷は前年比減、前月比増。価格は前年比、前月比高となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、サトイモが前年比119%、バレイショが114%、ネギが112%、など7品目。入荷が前年比減の品目は、タマネギが前年比83%、ナマシイタケが88%、ハクサイが89%、ダイコンが92%など8品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg¥233で前年比231%、ハクサイがkg¥80で188%、キャベツがkg¥112で180%、レタスがkg¥212で159%など9品目。前年比安の品目は、ニンジンがkg¥108で前年比52%、ネギがkg¥315で67%、バレイショがkg¥224で80%、サトイモがkg¥284で83%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の3月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	117,046	96.4	111.1	268	112.5	101.5
た ま ね ぎ	9,102	83.3	107.5	233	231.4	112.0
キ ャ ベ ツ	18,052	94.5	120.2	112	180.2	110.9
は く さ い	7,742	88.6	61.8	80	187.6	156.9
だ い こ ん	9,160	91.5	104.7	109	141.8	101.9
に ん じ ん	6,861	103.4	115.3	108	51.5	114.9
ば れ い し ょ	7,006	113.7	110.5	224	80.1	88.9
レ タ ス	7,017	97.8	129.0	212	159.4	72.9
ト マ ト	5,921	94.1	128.8	374	105.9	101.6
ね ぎ	3,889	111.9	96.9	315	67.3	105.4
か ぼ ち ゃ	2,060	112.3	108.7	181	96.1	98.7
な が い も	871	93.4	115.1	271	92.6	100.4
れ ん こ ん	479	57.0	82.9	682	168.5	104.3
に ん に く	226	126.8	103.2	958	71.0	89.1

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の3月の玉葱の入荷量は9,102トン前年比83%(前月比108%)。主力の北海物の入荷は6,064トン前年比80%、占有率は67%前年比3ポイントダウン。静岡物は1,281トン前年比105%、占有率は1

4%前年比3ポイントアップ。佐賀物は589トン前年比52%、占有率は7%前年比4ポイントダウン。中国物は547トン前年比343%、占有率は6%前年比4ポイントアップ。長崎物は370トン前年比67%、占有率は4%前年比1%ダウン。総平均単価はkg ¥ 233前年比231%（前月比112%）。産地別では、北海物はkg ¥ 219前年比265%。静岡物はkg ¥ 293前年比187%。佐賀物はkg ¥ 303前年比236%。中国物はkg ¥ 124前年比104%。長崎物はkg ¥ 297前年比218%となっている。

4月に入って、北海物の品薄は承知されていたものの、新物の入荷増が期待されたが、主力の佐賀物が低温と雨不足で生育が遅れ、入荷は一向に増えず品薄高傾向が続いた。終盤期の静岡・長崎物は前年並みか前年比増の入荷となったものの、数量的には少なく、玉葱の逼迫状態が続いた。愛知の知多地区も月半ばには終了し、主力の碧南地区の連続出荷は大型連休明けになる。此処に来て、佐賀物の入荷は増加傾向にあるものの、雨天曇天に阻まれ入荷は不安定で、市場では、過去に例を見ない高値が出現している。

4月1日～19日の入荷量は6,088トン前年比68%、平均単価はkg ¥ 244前年比313%。静岡物と長崎物の入荷は前年比増となったが、北海物と佐賀は大幅減となっている。産地別では、北海物の入荷は2,856トン前年比68%、平均単価はkg ¥ 216前年比308%。佐賀物は2,258トン前年比55%、平均単価はkg ¥ 254前年比343%。中国物は237トン前年はなし。長崎物は194トンで前年比134%、平均単価はkg ¥ 243前年比300%。静岡物は234トン前年比142%、平均単価はkg ¥ 239前年比357%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の3月の玉葱販売量は5,753トン前年比82%（前月比109%）で前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は

4, 360トン前年比75%、占有率は76%前年比8ポイントダウン。静岡物は790トン前年比141%、占有率は14%前年比4ポイントアップ。愛知物は417トン前年比78%。総平均単価はkg¥188前年比218%(前月比111%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥160前年比213%。静岡物はkg¥287前年比186%。愛知物はkg¥280前年比222%となっている。

4月に入って、地場物は知多物のほか、碧南物も走りが少量入荷しているが、入荷量は一向に増えない。生育不良と聞いているが、月半ばになっても両地区併せて20トン程度の少量で、品薄高が続いている。愛知県では、地産地消を提唱しているが、今年は他市場に流れているのか？地元市場への入荷が少ない。不足分は転送物で補充している。此処に来て、愛知物はやや増加傾向にあるものの、休市明けも40トン前後の入荷で、需給は逼迫している。大型連休を控え数量確保に四苦八苦の状態である。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の3月の玉葱の販売量は、2,895トン前年比60%(前月比101%)で前年比減、前月比やや増であった。総販売量は前月の前年比65%を更に下回り60%で、建値市場の平均値の81%を大きく下回っている。産地別の販売量は、北海物が1,741トン前年比53%、占有率60%前年比8ポイントダウン。長崎物は556トン前年比157%、占有率19%前年比1ポイントダウン。兵庫物は222トン前年比93%、占有率8%で前年比3%アップ。静岡物は104トン前年比92%、占有率4%。佐賀物は102トン前年比65%、占有率4%で前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥235前年比262%(前月比113%)で堅調に推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥202前年比273%。長崎物はkg¥306前年比255%。兵庫物はkg¥293前年比208%。静岡物はkg¥292前年比173%。佐賀物はkg¥303前年比

327%となっている。

4月に入って、生育が遅れていた早生産地の新物は、本格的な出荷期となることで、入荷増が期待され、大方の市場関係者は軟調相場になると予想していた。北海物は終了期で入荷は更に細り、保合相場となった。然し、月半ばになっても新物の入荷は予想を大きく下回り、輸入物の高値と品不足も影響して、相場は月半ばから再び値上がりへと転じた。今週に入り天候不順も関係するが、入荷は一向に増加せず、且つ不安定で品不足が深刻化し、相場は高値を更新している。

4月1日～19日の販売量は1,797トン前年比59%、平均単価はkg¥242前年比336%。産地別では、佐賀物は533トン前年比69%、平均単価はkg¥243前年比386%。長崎物は512トン前年比147%、平均単価はkg¥248前年比318%。北海物は467トン前年比30%、平均単価はkg¥230前年比319%。兵庫物は213トン前年比75%、平均単価はkg¥261前年比287%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の3月の玉葱販売量は、2,498トン前年比98%(前月比123%)で、前年比減、前月比増となっている。北海物が主力で、北海物の販売量は1,223トン前年比76%、占有率49%で前年比14ポイントダウン。長崎物は560トン前年比97%、占有率22%前年比1ポイントダウン。佐賀物は289トン前年比139%、占有率12%で前年比3ポイントアップ。中國物は379トン前年比320%、占有率15%で前年比8ポイントアップ。総平均単価はkg¥220前年比239%(前月比113%)で前年比、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥213前年比260%。長崎物はkg¥278前年比248%。佐賀物はkg¥281前年比278%。中國物はkg¥101前年比9

6%となっている。

4月に入って、新物は長崎物に加え佐賀物の入荷で、品不足がやや緩和されて、相場はL・10kg・¥3,000の高値から¥2,300~2,200の落ち着いた価格帯になり、売り易くなった。が、中国物のムキ玉が20kg ¥5,000との高値情報が伝わり、産地関係者は強気になり、相場は再び値上がりしそうな雰囲気になった。月半ばから需給はタイトになり、相場は急速に上昇した。大型連休を控えた昨今では、新物の引き合いが強く、相場はL・10kg・¥5,000~3,500に値上がりしている。事前契約分は¥3,500だが、即日販売分と転送業者向けは¥5,000~4,500で価格差が大きい。平均値は¥4,000前後である。既に、相場は天井を打っていると思うが、気を許せない。

4月1日~19日の玉葱の販売量は1,482トン前年比94%、平均単価はkg ¥212前年比287%。入荷は前年比減、単価は前年比3倍で異常高値となっている。

4月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷94トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥6,000~5,800、 L大 ¥6,000~5,800、 L ¥5,800~5,500、
M ¥4,500~4,000。

佐 賀 20kgDB2L ¥7,500~7,000、 L ¥10,000~8,000、 M ¥10,000~8,000。

【太田市場】 入荷295トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥7,500~7,000、 L大 ¥7,200~6,300、 L ¥6,800~6,000。

佐 賀 20kgDB2L ¥7,500~6,500、 L ¥8,000~7,000、 M ¥8,000~7,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥3,800~3,600、 L ¥4,000~3,800、 M ¥4,000~3,800。

長 崎 10kgDB2L ¥3,600~3,400、 L ¥3,800~3,600、 M ¥3,600~3,400。

愛 知 20kgDB2L ¥7,200~7,000、 L ¥7,700~7,500。

【名古屋北部市場】 入荷101トン 強い

北 海 20kgDBL大 ¥8,700~5,500、 L ¥7,000~5,500、 M ¥5,000~4,000。

愛 知 10kgDB2L ¥3,500~3,000、 L ¥4,000~3,500、 M ¥3,500~3,400。

【大阪本場】 入荷104トン 保合

長 崎 10kgDB2L ¥4,000~3,800、 L ¥4,500~3,800、 M ¥4,200~3,800。

佐 賀 10kgDB2L ¥4,000~3,800、 L ¥4,500~3,800、 M ¥4,200~3,800。

佐 賀 20kgDB2L ¥7,000~ L ¥8,000~7,500、 M ¥7,000~

兵 庫 10kgDB2L ¥4,200~3,800、 L ¥4,500~3,800、 M ¥4,200~3,800

大 阪 10kgDB2L ¥3,500~3,200、 L ¥3,600~3,500、 M ¥3,400~3,200。

【福岡市場】 入荷172トン 強い

北 海 20kgDBL大 ¥6,500~5,500、 L ¥6,000~5,000、 M ¥5,000~4,500。

長 崎 10kgDB2L ¥4,500~3,500、 L ¥5,000~3,500、 M ¥5,000~3,500。

佐 賀 10kgDB2L ¥4,500~3,500、 L ¥5,000~3,500、 M ¥5,000~3,500。

佐 賀 20kgDB2L ¥8,000~6,500、 L ¥9,000~7,000、 M ¥9,000~7,000。

供給(産地)の動き

4月の出回り量は、府県の早生物産地が出荷期を迎え、日を追って増加し需給は緩和傾向になるものと、予想されていたが、3月以上に需給はタイトになり、品不足が深刻化した。全国の登録出荷団体の4月の出荷計画は66,958トンで前年比100%となっていたが、何故過去に例を見ない逼迫状態になったのか？検証することが肝要である。府県産地の生育・出荷の後ずれはあるものの、計画外れは大き過ぎた。5月計画は、前年比82%となっているが、少なくとも90%台に乗ることを望みたい。現在、主産地の佐賀・兵庫(淡路)を始め、いずれの産地も、強気の姿勢を崩していない。5月出荷の品種も豊作が期待出来ず、

大幅な出回り増は期待出来そうにない。

府県産地

長崎の早生産地は諫早地区の一部を残し終了間近である。主力産地の佐賀では早生マルチが殆ど終了し、露地物の出荷に移行している。現在、多収穫品種のレクスターの収穫が始まっているが、昨年に比べ1週間程度遅れており、球肥大はやや小振りである。反収は6～5トンで前年に比べ1トン程度の減収と見ている。価格は異常高値を反映して、生産者は過去に例を見ない高収入を得ている。佐賀商組の報告では、4月11日時点の球流れは、3L1%、2L15%、L52%、M23%、S5%、外4%となっている。産地相場は、20kg裸値・2L¥2,100、L¥2,500、M¥2,500。10日後の4月25日は、2L¥4,000、L¥5,000、M¥4,500に値上がりしている。

兵庫(淡路)では、極早生のレクスターの収穫が始まっている。今年のレクスター種、早生七宝種ともに、生育は1週間程度遅れているが、葉鞘が細く、倒伏が早い。作柄は豊作だった前年の8分作で平年作を下回ると予想されている。球流れは2Lが少なく、L中心で外品の発生率が少なく、球締りは良い。主力品種の中晩生のターザンは、例年発生する4月初旬の強風による葉折れの被害がなく、生育は順調に回復、病害の発生も少ない。唯、干ばつによる肥料切れか抽苔の発生が多い。

北海道産地

令和3年産の玉葱は、過去に例を見ない高値市況に恵まれ、望外の収入を得ることが出来た。今年産は、播種・育苗は順調に進んだが、年明けからの積雪量が多く、融雪遅れが心配されていたが、春の温暖な気候に恵まれ、融雪が予想外に早く、殆どの地域で平年と同時期の定植となっている。唯、定植後に降雨少なく活着が心配されている地域もある。

輸入動向

3月の輸入は速報値で、28,449トン前年比155%。前月同様国際的なコロナ禍に加えロシアのウクライナ侵攻など、諸問題の発生で輸入量は予想量を下回ったものの、前年比では大幅増となった。主力の中国が25,817トン前年比147%。ニュージーランド1,029トン前年比235%。アメリカ物が525トン前年比404%。タイが384トン前年比142%。オーストラリアが257トン前年比514%。オランダが245トンで前年は輸入なし。

中国、甘粛省から後続産地の雲南省へ移行しているが、作付け減と甘粛省の在庫減から、産地相場は高値でのスタートとなり、現在も値上がり傾向が続いている。中国も、3月下旬からコロナ感染者の急増に伴い、感染者発生地域では外出禁止や移動規制令のため、ムキ玉工場も稼働が抑制されている。

現在の価格は、20kg・C&F、ムキ玉\$35.00、皮付き\$22.00に値上がりしている。

ニュージーランド、既報の通り、主産地のプケコへでは高温・早魃に見舞われて、稀にみる不作となった。価格も高値で推移している。更に、日本向けの船便の確保が困難で、経由地での積み替えとなることが常態化し、航海日数は30日を要する状態にある。現在のオファー価格は、65～75mmサイズ・20kg・C&F・¥2,200であるが、日々値上がりしている。

5月の市況見通し

4月は、府県産地の極早生種の生育遅れで、品不足が深刻化し、市場相場は過去に例を見ない高値の出現となった。5月出荷の府県産の主力は、佐賀、兵庫、愛知で、続く中小産地は長崎、大阪、千葉、群馬となるが、いずれの産地も減反、減収となる予想で、中晩生の前倒し出荷があるとしても、需給の大幅な

緩和は期待出来そうにない。4月後半の異常高値は是正されるとしても、破格の高値相場が続く可能性が強い。更に、生食向けの品不足で業務・加工向けとなる数量が特に逼迫する。輸入物も国内産以上の高値となっており、業務・加工筋の原料不足が深刻化する。と見ている。（笹野敏和記）